

# シラバス集

マロニエ医療福祉専門学校  
理学療法学科 4年

2026年度

# シラバスの見方

授業科目名	①		実務経験講師	③
担当教員名	②		実務経験	④
開講年度	⑤ 年度	学 期	⑦	
年 次	⑥ 年次	授業回数	⑧ 回	
単 位 数	単 位	単位時間数	時 間	
授業科目の概要	⑨			
授業科目の到達目標	⑩			

## 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用テキスト	⑫
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	
その他 受講生への要望等	

### ① 授業科目名

### ② 担当教員名

担当する主な講師の氏名です。氏名の前の番号は「実務経験（④）」に対応しています。

### ③ 実務経験講師

講師に担当する科目に関する実務経験がある場合、「○」がついています。

実務経験とは・・・資格をもっているだけではなく、実際の施設等で資格を活かして働いた経験があるということ。

※一部を除き、違う学校で同様の科目を教えている等の教員経験は実務経験に含まれません。

### ④実務経験

担当講師の実務経験内容を簡単に記してあります。

### ⑤開講年度

### ⑥年次

授業を受ける学年です。

### ⑦学期

前期・・・4月～9月

後期・・・10月～3月

通年（全期）・・・1年間を通して、もしくは前期～後期にかかるどこかの期間で

### ⑧授業回数

### ⑨授業科目の概要

授業内容の大まかな説明です。

### ⑩授業科目の到達目標

授業が修了した時に到達するべき学修の目標です。

### ⑪授業スケジュールと内容

内容・・・1回の授業がどのような内容で構成されているか

授業方法・・・講義、演習、実習など

課題/小テスト・・・その授業の回に課題や小テストが課されている場合は記載されます。予習の内容が書かれている場合もあります。

### ⑫使用テキスト

授業で使用するテキストの情報です。プリント等オリジナル教材を使用する場合もあります。

## シラバスの使い方

シラバス（授業計画書）は、各授業科目の概要のことです。

あらかじめ学生の皆さんに授業の進め方、学習内容、学習のねらいや評価方法を提示することによって、授業の流れをよく理解してもらい、より計画的に、主体的に、効果的に学習できることを目的に作成したものです。

シラバスを読めば、科目担当教員が皆さんにどのようなことを修得してほしいのか、また、何をどこまで、どのような方法で授業するのかを事前に知ることができます。専門学校での授業は、予習→授業→復習のサイクルを確立することが基本であり、最も大切です。シラバスを有効に活用して、自分に合った学習のパターンや方法を見つけ、学習に取り組んでください。

### 【授業を受ける前に】

1. 科目の到達目標には、その科目を勉強することによって皆さんに身につけてほしい目標が記載されています。この科目で身につけるべきことは何かを確認しましょう。
2. 授業の概要・内容・進め方を確認し、自分が何を学ぶのかイメージした上で、計画を立てて学習に臨みましょう。
3. 各回のキーワードはその授業で覚えてほしい重要なもの（将来的には国家試験にも関連する事柄も含む）として示してあります。各回の授業で自分が理解できたかどうかを振り返る上でのポイントとなります。
4. 使用テキスト・参考書については何を使用するのか事前に確認し、準備しましょう。
5. 「この科目の基礎となる科目」は、この科目を学ぶ上でベースとなる科目です。また、「この科目を基礎とした科目」はこの科目で学んだことを用いて発展させることを目指す科目です。科目同士のつながりを意識しながら、効果的に学びましょう。
6. 「成績評価の方法」にはこの科目の評価に用いる試験や課題などの情報を示してあります。課題レポート・出席状況・小テストなども含まれる科目がありますので、よく確認しましょう。
7. 提出物のある科目については、各学科のルールを確認の上、締め切りを守りましょう。専門職を目指す皆さんには、時間管理や、ルールを守ることも基本的な力として身につけてほしいと考えています。

シラバスの大まかな使い方は以上ですが、わからないことがあれば、遠慮なく教員に聞いてください。

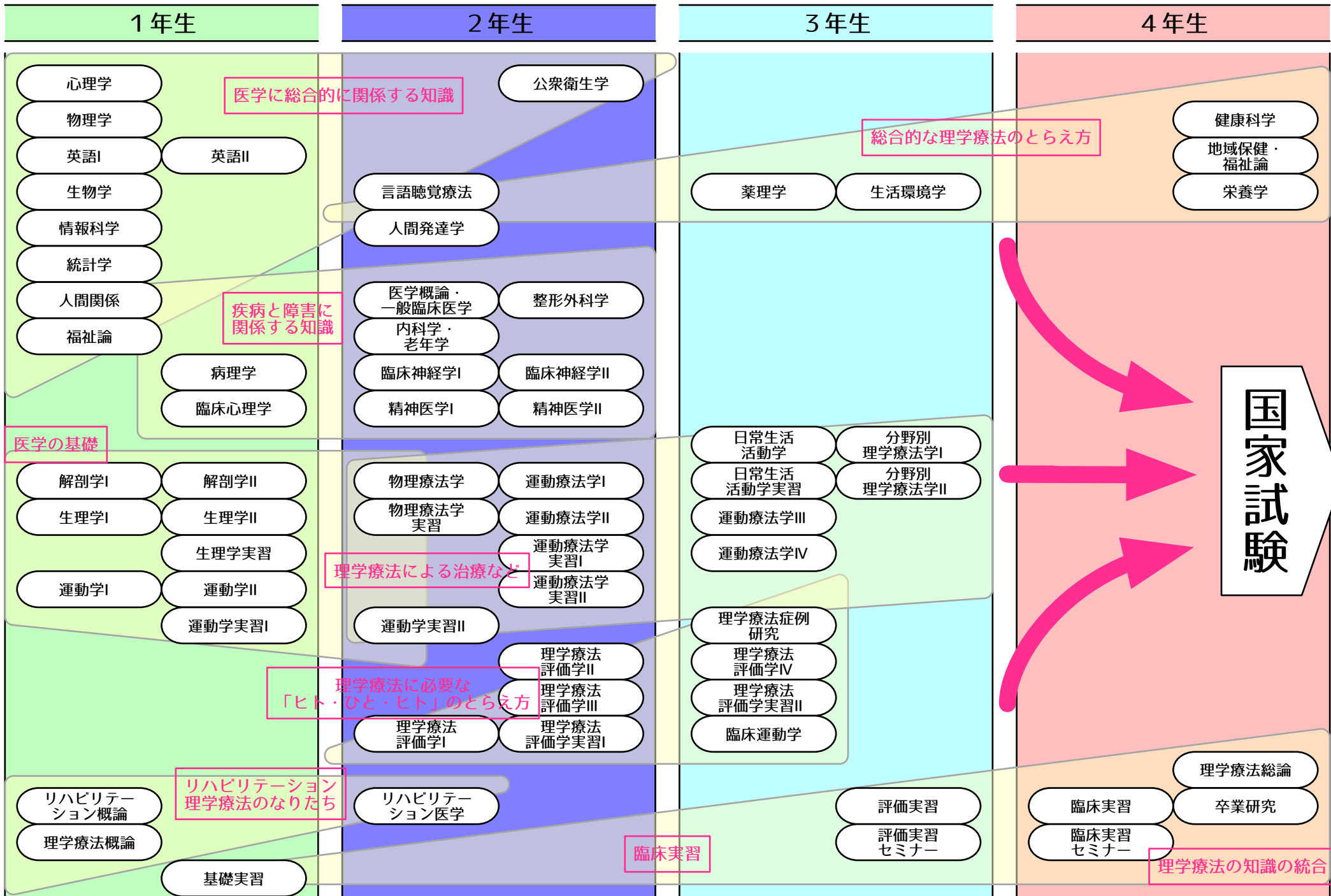
別表 I-4

## 理学療法学科 授業科目一覧

区分	カリキュラム	授業科目名	指定規則	学校指定		一年生				二年生				三年生				四年生			
						前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
						単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	心理学	14	2	30	2	30														
		理学		2	30	2	30														
		健康科学		2	30																
		人間関係		2	30	2	30													2	30
		福祉論		2	30	2	30														
		英語Ⅰ		2	30	2	30														
		英語Ⅱ		2	30			2	30												
		生物		2	30	2	30														
		公衆衛生学		2	30							2	30								
		情報科学		2	30	2	30														
統計学	2	30	2	30																	
基礎分野・小計			14	22	330	16	240	2	30			2	30					2	30		
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学Ⅰ	12	4	60	4	60														
		解剖学Ⅱ		4	60			4	60												
		生理学Ⅰ		4	60	4	60														
		生理学Ⅱ		4	60			4	60												
		生理学実習		* 1	* 30			* 1	* 30												
		運動学Ⅰ		4	60			4	60												
		運動学Ⅱ		2	30					2	30										
		運動学実習Ⅰ		* 1	* 30			* 1	* 30												
		運動学実習Ⅱ		* 1	* 30					* 1	* 30										
		人間発達学		2	30					2	30										
基礎分野	疾病と障がい の成り立ち及び 回復過程の促進	病理学	12	4	60			4	60												
		臨床心理学		4	60			4	60												
		医学概論・一般臨床医学		4	60					4	60										
		内科学・老年学		4	60					4	60										
		整形外科学		4	60						4	60									
		臨床神経学Ⅰ		4	60					4	60										
		臨床神経学Ⅱ		4	60						4	60									
		精神医学Ⅰ		2	30					2	30										
		精神医学Ⅱ		2	30						2	30									
		保健医療福祉とリハビリテーションの理念		2	30	2	30					2	30								
リハビリテーション医学	2	30						2	30												
専門基礎分野・小計			26	63	990	10	150	22	360	21	330	10	150								
専門分野	基礎理学療法	理学療法概論	35	2	30	2	30														
		臨床運動学		2	30							2	30								
	理学療法症例研究	4		60									4	60							
	理学療法管理学	4		60										4	60						
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ		2	30					2	30										
		理学療法評価学Ⅱ		2	30						2	30									
		理学療法評価学Ⅲ		2	30							2	30								
		理学療法評価学Ⅳ		2	30								2	30							
		理学療法評価学実習Ⅰ		* 2	* 60							* 2	* 60								
		理学療法評価学実習Ⅱ		* 1	* 30								* 1	* 30							
	理学療法治療学	運動療法学Ⅰ		2	30							2	30								
		運動療法学Ⅱ		2	30							2	30								
		運動療法学Ⅲ		2	30								2	30							
		運動療法学Ⅳ		2	30								2	30							
		運動療法学実習Ⅰ		* 1	* 30							* 1	* 30								
		運動療法学実習Ⅱ		* 1	* 30							* 1	* 30								
		運動療法学実習Ⅲ		* 2	* 60								* 2	* 60							
		物理療法学		2	30					2	30										
		物理療法学実習		* 1	* 30					* 1	* 30										
		義肢装具学		4	60								4	60							
義肢装具学実習		* 2	* 60								* 2	* 60									
日常生活活動学		4	60								4	60									
日常生活活動学実習	* 1	* 30								* 1	* 30										
地域理学療法	分野別理学療法Ⅱ	4	60										4	60							
	生活環境学	2	30										2	30							
	地域保健・福祉論	2	30														2	30			
臨床実習	基礎実習	* 18	* 1	* 45			* 1	* 45													
	評価実習		* 6	* 270									* 6	* 270							
	評価実習セミナー		* 2	* 60										* 2	* 60						
	臨床実習		* 16	* 720											* 16	* 720					
	臨床実習セミナー		* 1	* 30											* 1	* 30					
専門分野・小計			53	83	2,145	2	30	1	45	5	90	12	240	26	480	18	480	17	750	2	30
選択必修		栄養学		2	30																
		薬理学		2	30							2	30								
		言語聴覚療法		2	30					2	30										
		理学療法総論		8	120														8	120	
		卒業研究		4	60														4	60	
選択必修科目・小計			-	18	270					2	30			2	30					14	210
合計			93	186	3,735	28	420	25	435	28	450	24	420	28	510	18	480	17	750	18	270

注1) \* は実習科目の単位(学内実習及び臨床実習)

注2) 講義及び演習の科目については30時間の授業をもって2単位、学内実習科目は30時間の授業をもって1単位、臨床実習科目は45時間の授業をもって1単位とする。



授業科目名	健康科学		実務経験講師	○
担当教員名	大出 理香		実務経験	管理栄養士
開講年度	2026 年度	学 期	後期	
年 次	4 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	リハビリテーション計画を作成することにより、栄養の必要性について学ぶ。			
授業科目の到達目標	これまでに学習した知識や実習での学びを振り返りつつ、臨床で必要になる知識を理解する。			

### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	健康の意義 健康施策、リハビリテーション計画症例	講義	
2	健康な食生活、睡眠指針	講義	
3	症例評価項目検討	グループワーク	
4	リハビリテーション栄養	講義・グループワーク	
5	リハビリテーション計画立案のための評価	講義・グループワーク	
6	サルコペニア	講義・グループワーク	
7	フレイル	講義・グループワーク	
8	メタボリックシンドローム	講義・グループワーク	
9	ロコモティブシンドローム	講義・グループワーク	
10	リハビリテーション計画立案	グループワーク	
11	リハビリテーション計画立案	グループワーク	
12	リハビリテーション計画立案	グループワーク	
13	リハビリテーション計画立案	グループワーク	
14	リハビリテーション計画発表	発表	
15	グループワーク総評、振り返り、計画修正	グループワーク	

使用テキスト	なし
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	生理学
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	レポート課題(30%)・グループワーク貢献度(30%)・発表(40%) 医療従事者として健康を維持・増進するための実践努力の成果(自己評価)も含め、評価します。 レポート課題とともにグループワークへの貢献度についても評価します。
その他 受講生への要望等	リハビリテーション栄養の重要性について理解を深めて欲しいです。 授業内容の変更の可能性があります。ご理解ください。

授業科目名	地域保健福祉論		実務経験講師	○
担当教員名	①細井 直人 ①金子 操 他		実務経験	①理学療法士
開講年度	2026 年度	学 期	後期	
年 次	4 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	① 地域リハビリテーションにおける歴史・制度・システムを理解する。 ② 地域包括ケアに向けたこれからの医療や介護サービスの変化・現状を知る。 ③ リハビリ専門職に係わる業務について知り、それを役立てるシステム等について考え・学ぶ。			
授業科目の到達目標	① 地域包括ケアとリハビリテーションについてシステムを理解する。 ② 精神障がい者の地域生活支援について理解する。 ③ 障がい者スポーツを学び実際に体験する。 ④ 在宅分野での PT・OT の実際について学ぶ。 ⑤ 自分のなりたい PT・OT 像を踏まえグループワークができ、発表ができる。			

### 授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	細井	地域包括ケアとリハビリテーション 1	講義	
2	細井	地域包括ケアとリハビリテーション 2	講義	
3	細井	地域包括ケアとリハビリテーション 3	講義	
4	細井	地域包括ケアとリハビリテーション 4	講義	
5	細井	地域包括ケアとリハビリテーション 5	講義	
6	細井	地域包括ケアとリハビリテーション 6	講義	
7	金子	在宅分野での PT・OT の実際	講義	
8	金子	在宅分野での PT・OT の実際	講義	
9	外部講師	地域包括ケアにおける PT・OT の役割 ～市町村の立場から～	講義	
10	山口・須藤	精神障がい者の地域生活支援	講義	
11	山口・須藤	地域を知り、関係性を繋ぐ支援を考える	講義・演習	
12	駒崎	障がい者スポーツ支援活動について	講義・演習	
13	駒崎	障がい者スポーツ支援活動について	講義・演習	
14	IPE	地域で活躍する専門職の役割～多職種連携活動を通じて～	演習	
15	芳澤	定期試験	試験	

使用テキスト	なし
参考書・資料 等	1)地域リハビリテーション論 太田仁史著 三輪書店 2)地域リハビリテーション学テキスト 和田多穂監修 南江堂 3)訪問リハビリテーション実践テキスト 全国訪問リハビリテーション研究会編
この授業科目の前提となる主な科目	精神医学 評価実習 臨床実習
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	筆記試験
その他 受講生への要望等	

授業科目名	臨床実習セミナー		実務経験講師
担当教員名	矢口 剛・向山 弘一・芳澤 有希子・笠木 広志 大門 友加・谷中田修右		実務経験
開講年度	2026 年度	学 期	前期
年 次	4 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	臨床実習で実施した「ニーズの把握」や「目標設定」、それを可能にするための「治療プログラム」、総合的な「統合と解釈」を見直し、加筆修正を加えるための授業である。また、他の学生の症例を模擬患者として捉え、様々な疾患に対する理学療法を進め方を考える機会とする		
授業科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 臨床実習時の担当症例に関して、要点をまとめ発表することができる。</li> <li>② 他者からの意見を尊重し、内容の修正ができる。</li> <li>③ 他の学生の症例に関して、積極的に討論できる。</li> <li>④ 様々な疾患に対する運動療法などの治療プログラムを立案できる。</li> <li>⑤ 実施した治療プログラムについて結果を踏まえて考察できる。</li> </ul>		

### 授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	全員	臨床実習Ⅰの振り返り	講義	
2-13	全員	症例報告ならびに検討会	発表と質疑応答	
14	全員	臨床実習Ⅱの振り返り	講義	
15	全員	まとめ	講義	

使用テキスト	特になし
参考書・資料 等	① 嶋田 智明 編、「ケースで学ぶ 理学療法臨床思考」文光堂
この授業科目の前提となる主な科目	①「理学療法評価学Ⅰ～Ⅳ」②「理学療法評価学実習Ⅰ・Ⅱ」③「理学療法症例研究」 ④「臨床運動学」⑤「日常生活活動学」⑥「運動療法学Ⅰ～Ⅳ」⑦「運動療法学実習Ⅰ・Ⅱ」 ⑧「分野別理学療法学Ⅰ・Ⅱ」
この授業科目から発展する主な科目	①「卒業研究」②「理学療法総論」
成績評価の方法	① 提出したレジュメの内容 ② 発表ならびに質疑応答の内容 ③ ピア評価
その他 受講生への要望等	① 教員からの一方的なレクチャーではなく、受講生同士の意見交換をもとにした症例検討会を望みます。つきましては、積極的な参加を心がけて下さい。

授業科目名	栄養学	実務経験講師	○
担当教員名	大出 理香	実務経験	管理栄養士
開講年度	2026 年度	学 期	後期
年 次	4 年次	授業回数	15 回
単 位 数	2 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	栄養と代謝、リハビリテーション栄養の基礎知識を学ぶ。		
授業科目の到達目標	自分自身の健康維持・増進に反映できる食生活について理解し、対象者の健康状態に合わせたワンポイントアドバイスができるようになることを目標とする。		

### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	生化学・栄養学とは	講義・個人ワーク	
2	生化学・栄養学に必要な基礎化学	講義・個人ワーク	小テスト
3	蛋白質とアミノ酸	講義・個人ワーク	
4	酵素・ホルモン	講義・個人ワーク	小テスト
5	糖質・脂質の代謝	講義・個人ワーク	
6	ビタミン	講義・個人ワーク	小テスト
7	消化と吸収	講義・個人ワーク	
8	エネルギー代謝	講義・個人ワーク	小テスト
9	運動と栄養	講義・個人ワーク	
10	リハビリテーションと栄養	講義・個人ワーク	小テスト
11	栄養評価	講義・個人ワーク	
12	主な病態の栄養管理	講義・個人ワーク	小テスト
13	静脈栄養・経腸栄養法	講義・個人ワーク	
14	栄養と摂食嚥下	講義・個人ワーク	小テスト
15	期末試験	試験	

使用テキスト	リハベーシック 生化学・栄養学 第 2 版 医歯薬出版株式会社
参考書・資料 等	PT・OT・ST のためのリハビリテーション栄養第 2 版 栄養ケアがリハを変える 医歯薬出版 リハビリテーション医学・医療における栄養管理テキスト 医学書院
この授業科目の前提となる主な科目	生理学
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	評価は筆記試験で行う。筆記試験は後期定期試験(100%)で評価する。評価は学則規定に準ずる。
その他 受講生への要望等	栄養学を学びリハビリテーションとの関連性について理解を深めて欲しいです。 授業内容の変更の可能性があります。ご理解ください。

授業科目名	理学療法総論		実務経験講師
担当教員名	向山弘一・芳澤有希子・笠木広志・大門友加 谷中田修右		実務経験
開講年度	2026年度	学 期	後期
年 次	4年次	授業回数	60回
単 位 数	8単位	単位時間数	120時間
授業科目の概要	4年間の総まとめとして教科別に国家試験の解説を作成し発表をする。また小テストにて到達度を確認する。業者の模擬試験や校内の模擬試験を行う。また国家試験対策の講義を行う。		
授業科目の到達目標	①教科別に解説を作成し、発表することができる。 ②教科別での小テストを合格できる。 ③理学療法士国家試験をふまえて、これまで修得した知識を統合し再確認することができる。		

### 授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1・2	模擬試験	模擬試験	
3・4	解剖・生理・運動学		
5・6	解剖・生理・運動学		
7・8	解剖・生理・運動学		
9・10	解剖・生理・運動学		
11・12	解剖・生理・運動学		
13・14	解剖・生理・運動学		
15・16	模擬試験(医歯薬出版Ⅰ)	模擬試験	
17・18	臨床医学		
19・20	臨床医学		
21・22	臨床医学		
23・24	臨床医学		
25・26	臨床医学		
27・28	臨床医学		
29・30	臨床医学		
31・32	模擬試験(医歯薬出版Ⅱ)	模擬試験	
33・34	PT 専門		
35・36	PT 専門		
37・38	PT 専門		
39・40	PT 専門		
41・42	PT 専門		
43・44	PT 専門		
45・46	物理療法学解説	講義	

47・48	脊髄損傷解説	講義	
49・50	MMT解説	講義	
51・52	臨床心理学・精神医学解説	講義	
53・54	運動学習解説	講義	
55・56	義肢装具学解説	講義	
57・58	発達・小児解説 PT	講義	
59・60	定期試験		

使用テキスト	クエスチョン・バンクPT・OT国家試験問題解説 2026共通問題 専門問題 メディックメディア
参考書・資料 等	PT・OT国家試験 必修ポイント 専門基礎分野基礎医学・臨床医学・基礎PT学 障害別PT治療学 医歯薬出版株式会社
この授業科目の前提となる主な科目	4 年前期までの履修科目
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	定期試験その他の筆記試験、出席及び授業態度
その他 受講生への要望等	予定は変更になりうるので、その都度連絡する。

授業科目名	卒業研究		実務経験講師	
担当教員名	向山弘一 他		実務経験	
開講年度	2026 年度	学 期	後期	
年 次	4 年次	授業回数	30 回	
単 位 数	4 単位	単位時間数	60 時間	
授業科目の概要	臨床実習での経験を通じて生じた「クリニカルクエスト」に基づき、詳細な文献レビューやフィールドワーク、実験を基に、発展させた意見を述べる。根拠に基づく論理的思考を軸とした文章表現や論述を、表現と指導を通じて養う。			
授業科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 明確なクリニカルクエストが提示できる。</li> <li>② 必要な情報収集や実証が積極的、発展的にできる。</li> <li>③ 根拠を基にした情報解釈・分析ができる。</li> <li>④ 報告書・プレゼン作成と口頭発表が適切にできる。</li> <li>⑤ 指導担当教員と密な情報交換ができる。</li> </ul>			

### 授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1-2	全員	卒業研究作成のオリエンテーション	講義	卒業研究計画書の作成
3-24	全員	個別での研究、担当教員の個別指導	個別指導	
25-26	全員	中間報告会	発表	
27-58	全員	個別での研究、担当教員の個別指導	個別指導	
59-60	全員	卒業研究発表会	発表	

使用テキスト	なし
参考書・資料 等	① 卒業研究のしおり
この授業科目の前提となる主な科目	① 「臨床実習」
この授業科目から発展する主な科目	なし
成績評価の方法	① ピア評価 ② グループ評価
その他 受講生への要望等	① 4 年間の学習の集大成として、能動的な研究姿勢で臨みましょう。授業としての研究ではなくあなたにとっての「クリニカルクエスト」を懸命に見つけてください。卒後の理学療法士としての継続的な学習につながる経験となりますように。 グループで研究を進めます。基本的にアクティブラーニング形式で行われます。ピア評価・グループ評価を意識して自身を貢献させてください。